

2022年5月18日
株式会社ペルセウスプロテオミクス

富山大学及び富山県とのスーパー中和抗体についての 共同研究に関する覚書締結のお知らせ

株式会社ペルセウスプロテオミクス（本社：東京都目黒区、代表取締役社長：横川拓哉）は、このたび国立大学法人富山大学（以下「富山大学」）及び富山県（担当部門：衛生研究所ウイルス部および「くすりのシリコンバレーTOYAMA」創造コンソーシアム運営事務局）と、新型コロナウイルス感染症（以下「COVID-19」）に対する「スーパー中和抗体（開発コード：UT28K）」についての共同研究に関する覚書を締結しましたので、お知らせいたします。

COVID-19は、次々と出現する変異株によって、市民生活や経済活動に世界的な影響を及ぼし続けています。国内においてはワクチン接種も進んでおりますが、ワクチンの有効性は変異株の種類やワクチン投与後の期間に依存します。経口治療薬も開発されていますが、未知の変異株に対する効果は不明であり、動物実験では催奇形性の報告があるため、妊婦等に用いることはできません。このため、将来的な変異株出現に備えて、変異に依存せず、安全かつ確実に治療可能な治療薬の開発が求められています。

こうした中、2022年5月12日付の富山大学の発表[※]のとおり、富山大学先端抗体医薬開発センター、同大学和漢医薬学総合研究所、富山県衛生研究所ウイルス部、京都大学医生物学研究所、北海道大学薬学研究院の共同研究グループは、富山大学が昨年取得し、「スーパー中和抗体」と命名したヒト型・モノクローナル中和抗体 UT28K が、新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)の既存の変異株だけでなく、今後出現すると考えられる新たな変異株の感染も防ぐ治療薬となり得ることを、実験的に確認しました。

当社は、UT28Kの一刻も早い事業化のため、富山大学の事業パートナーとして選定され、このたびの契約締結に至りました。COVID-19治療薬は、その他の新興感染症治療薬と同様に、新たな変異型が次々出現すること、流行の波の影響を受けて臨床開発の実施が難しいこと、事業性の予想が困難であることなどから、開発投資が難しい領域です。一方、COVID-19新規変異株に対する国産治療薬の整備は極めて重要な医療課題であると認識しております。

当社はこれまでの抗体医薬品開発の経験を活かし、富山大学及び富山県と共同で、本薬剤の開発を推進いたします。政府助成金等の獲得状況に応じて、非臨床試験、治験薬製造、健常人での安全性試験及び患者さんでの臨床治験の各ステップに分けて、実用化に向けた開発を進める計画です。また、ワクチンの投与が遅れているアジア各国への提供による国際的な医療貢献を目指すとともに、将来的な大規模感染症の発生時、国産中和抗体治療薬を安定的に提供するための製造・備蓄体制の整備に向けて、事業化を推進してまいります。

※ [富山大学の UT28K に関するリリース](#)

【その他関連情報】

- 富山大学
<https://www.u-toyama.ac.jp/outline/pr/publicity/pressrelease2022/>
- 「くすりのシリコンバレーTOYAMA」創造コンソーシアム
<https://www.kusuri-consortium.jp/>

【 本リリースに関するお問い合わせ先 】

株式会社ペルセウスプロテオミクス 管理部

TEL: 03-5738-1705

e-mail: ir@ppmx.com